



初等部だより 2月号

鎌倉女子大学初等部

平成31年1月30日

第12号

準備

部長代理 勝木 茂

大寒は過ぎましたが、寒さはまだまだ続きそうです。「積極的なうがい」「せっけんを用いた手洗い」「せきエチケット」など、インフルエンザの予防については、ご家庭においても引き続きよろしく願いいたします。

さて、1月16日（水）午後、新年度入学生「体験授業」並びに「制服採寸」を実施いたしました。体験授業では、初等部で毎日行うことになる授業の始まりの礼の仕方の練習から「図工（ポップアップカードを作ろう）」「国語（ともだちとなかまわけをしよう）」と、初等部現1年生の教室で授業を体験しました。わたしも後半、授業の様子を見ていました。「国語」では、4人1グループでの話し合いや協働作業もありましたが、子どもたちは、互いに意見を交わすなど活発に活動していました。いわゆるアクティブラーニングの準備は大丈夫かも知れません。授業後、帰りの会を行い終了となりましたが、どの子どもも満足だったのではないのでしょうか。この「満足感」も入学への大切な準備です。

子どもたちが「図工」の授業を体験している間、保護者の皆様には、松本講堂にて、入学に向けての諸準備等についての連絡をさせていただきました。（後半の授業は参観していただきました。）

冒頭、わたしから保護者の皆様にお話をさせていただきました。特に「安全に登下校するための準備として、入学前に複数回、自宅から初等部まで、保護者の皆様と一緒に練習してください」とのお願いをいたしました。初等部には、公共交通機関を利用したり、交通量の多い交差点などの横断歩道を渡ったりしながら登下校している子どもたちがたくさんいます。実際に登下校練習することにより、「ここで信号待ちをする時には、あと1メートル後ろに下がって待つようにさせないと、交差点の巻き込み事故につながってしまうかもしれない」とか「このエスカレーターで誰かにぶつかって転落したら、あるいは転落させたら大けがにつながるな」とか「ホームでは様々な大勢の乗降客がいるから、電車

に遅れそうになっても、絶対に走らせないで次の電車に乗るようさせよう」というように、保護者として大人の目線からの予見・予知が可能となります。

事故は起きてからではなく未然防止がいちばん重要です。お子さんがどのような行動をとるのか、あるいは、とるかも知れないのか、それをいちばん分かっているのは保護者の皆様です。このことは、実は在校生も同じです。お子さんが大きくなるにしたがって行動の様子も変わってきていることもあります。バスや電車の乗車マナーも含めて、安全のための準備を十分をお願いいたします。



また、翌17日（木）には、6年生を対象にした「入試激励会」を実施いたしました。中学入試に向けて、先生全員が参加し、一緒に「どら焼きとお茶」をいただきながら、受験に向かう6年生を励ますというものです。和やかな中にも、緊張して受験に向かう6年生に「一人じゃないよ」「先生たちみんな応援しているよ」というメッセージを伝える会です。会の最後には、先生たち一人ひとりが削った鉛筆（名前入り）を全員にプレゼントしました。6年生には、きっとよい「準備」になったのではないのでしょうか。

初等部6年生の国語の教科書にも載っている、黒田三郎さんの詩「支度」（わたしはこの詩が大好きです。）に次のようなフレーズがあります。「心の支度はどうでしょうもうできましたか」

卒業式までは、残り1か月半、新年度開始は、2か月とあと少しです。